

2002年4月
(平成14年)
No. 20

Amizade

アミザーヂ

～姉妹都市協会ニュース～

発行 中津川市姉妹都市友好推進協会
岐阜県中津川市かやの木町2番1号
中津川市役所 広報広聴課
〒508-8501 ☎0573-66-1111

日本人移民の歴史を語り、日本との架け橋に

南米最大の精米所を改装



▲ (左から改装された資料館、教員研修センター)

レジストロ市移民資料館盛大に開所式

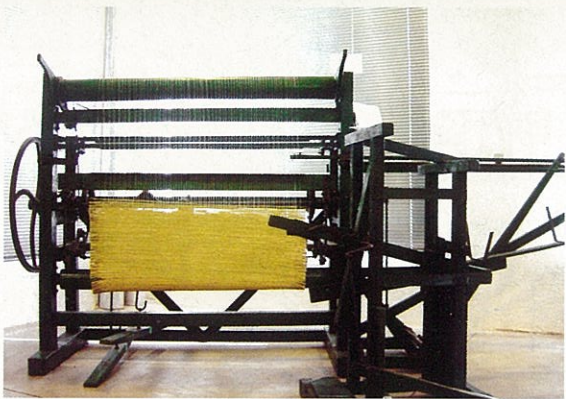
中津川市の姉妹都市ブラジル・レジストロ市は、サンパウロ市から南西に約200キロ離れたアルゼンチンを国道で結ぶ主要な地点にあります。現在も多くの日系人が生活し、20世紀初めに海外興業株式会社の日本人により建設されたレンガ造りの建築物があり、サンパウロ州の歴史的遺産として文化財に指定されるなど、日本になじみの深いものが多いまちです。

レジストロ移民資料館は、そんな日本との歴史を将

来に残すため旧海外興業株式会社(KKKK)の建物を2年前から改装し、2002年1月26日に開所しました。式典は、南半球の夏の強い日差しが照りつける中、サンパウロ州知事らが出席して行われ、2003年に入植から90年を迎える旧レジストロ移住地の新たな歴史の1ページを祝いました。花火が町中に響き渡り、市民は額に汗を流しながらも、大きな期待感を抱きこれを見守りました。

新たな歴史の

ページを祝す



ブラジルにて開発したゴザ織り機(1960年代)



メノウ(石)をかたどった美術品(折り紙の鶴)

中津川市から12500ドルの寄付

レジストロ市移民資料館改装に

レジストロ市移民資料館建設にあたり、その改装費等の一部として、中津川市から姉妹都市友好推進協会を通して寄付金を送金いたしました。

この寄付金は、総額12500米ドルとなり、中津川市からの補助金と中津川市姉妹都市友好推進協会が支援をして送金したものです。

寄付金は、同協会参与の旅行社ウニベルツール社長渡辺淳二さんがブラジルサンパウロ支社に送金し、現地時間2001年12月18日岐阜県人会館にて(写真右から順に)山田彦治岐阜県人会々長から、レジストロ市サムエル・モレイラ市長をはじめ、山村敏明姉妹都市友好会長、近岡健治市議、建築家の清水リーナさんの4人に手渡さ



岐阜県人会館で行われた贈呈式
(現地のサンパウロ新聞から)

れました。

資料館を核としたこの文化研修施設は移民資料館(3階建)、サンパウロ州教員研修センター(1階建)、文化活動センター(1F建)の3つの施設で構成されています。

移民資料館には「姉妹都市コーナー」が設けられていて、中津川市との20年にわたる友好の歴史が紹介され、また、現地の数々の貴重な歴史的資料が展示されています。

また、教員研修センターには、コンピューターやビデオなど情報機器が設置され、週に150名以上のサンパウロ州各地の教師が訪れ研修を受けています。

サムエル・モレイラ市長は、開所式典のあいさつで、旧海外興業株式会社(KKK)の再生がレジストロ市の未来を担うと述べ「週に300人まで受け入れ可能な教育指導者の育成プロジェクトが順調にいけば、彼らの往来によって多額の収入を市にもたらす」と特にその経済効果を強調しています。

また、山村会長は、「日本移民として何かを残していかなければならないという思いを中津川市が快く受け入れてくれたことに感謝したい。資料館は単なる過去の遺物の倉庫ではなく、次世代に日本人の歴史を伝えたい」と話しています。

平成14年度 会員募集

中津川市姉妹都市友好推進協会では、ただいま会員を募集しています。

個人 一口 千円
団体 一口 五千元
法人 一口 一万元

申込用紙は各地区のコミュニティセンター、市内の金融機関の窓口にて備えてあります。
ひとりでも多くの皆様のご協力をお願いします。

問い合わせ先

中津川市姉妹都市 友好推進協会
(中津川市役所広報広聴課)
☎(〇五七三)6611-11

ポルトガル語を学ばせませんか

自主サークル「ブラジルに親しむ会」ではポルトガル語の受講生を募集しています。中央公民館で毎月一回、ブラジルの文化やポルトガル語を楽しく学んでいます。

問い合わせ先

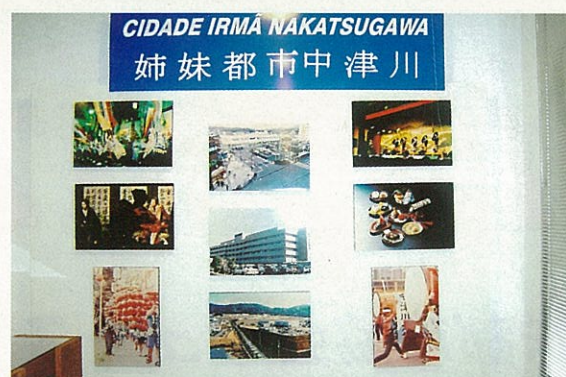
ブラジルに親しむ会 小川琴子
☎(〇五七三)6711-2973



資料館内部の紹介



中津川から贈られた日本の工業製品



姉妹都市中津川コーナー



レジストロ日伯文化協会の役員たち



五月人形のかぶと



展示場所の打合せ風景



研修センターのコンピューター



石臼・釜など



木製のお茶の葉もみ機



蓄音機



入植時の密林の道作りに使用した測量機

日本移民記念館が完成

海外興業株式会社（KKKK）が、サンパウロ州レジストロ市に所有していた赤レンガ造りの精米工場が日本移民記念館として再生する。落成式は二十六日、アルキミ州知事出席のもと行われる。補修・改築を手掛けたのはMASPなどの設計で知られるリナ・ポ・バルジ（一九九二年没）に長年師事していたマルセロ・カルバリーヨ・フェラスさん（四六）とフランシスコ・デ・バイバさん（四九）の二人。共にミナスジェライス州の出身でFAUを卒業。目下、国内外から注目を集める建築家だ。一九二〇年代初め、リベイル川の河畔に建設された日本移民最古の遺産が今、時代の先端を行く現代建築に生まれ変わろうとしている。

レジストロ市

26日州知事ら落成式へ

「改修のアイデアはS.C.ボネンベアに近い。サンパウロ市ピラマダレナ区にある二人の建築事務所、フラシスコさんはすでに完成している記念館の写真や設計図を見せながら説明する。

彼のパートナー、マルセロさんは一九七七年、リナ・ポ・バルジが設計したS.C.ボネンベアのプロジェクトに参加している。古い工場を生かすという点では今回も一緒だ。建物外部に突出する、真っ赤に塗られたエレベーターが目立つ。白色のマルキーゼも印象的だ。素材として風情のあるレンガと、日本国旗の色を配した現代建築のアクセサリーとの対比がはつとするほど美しい。内装には鮮やかなブルーも。

「わたしたちは古い建物に新しいものを効果的に差し込む手法を好む。その際にはオリジナルをちゃんとリスペクトすることを忘れてはいけない。このマルセロのつり方を見て欲しい。デリケートな建物に負担をかけるないようにしているんですよ。」

記念館の床面積は一、二、三階ともに六百六十坪。方角は、日系初の移住地・植民地（一九一三）など五つの植民地が開墾されたイグアツェーの一角のコンクリートから集められたさまざまな史料が展示される。また、約四十人の日系作家から寄附された絵画や陶器なども飾られる予定。「市はKKKに関する展示会も企画しているみたいだ」とフランシスコさんは教えてくれた。

プロジェクトが始まったのは四年前。精米工場は一九八〇年まで活用され、その後、一端は公共の文化施設とする案が議会で浮上した。しかし、建物は市の遺産指定を受けながらも、朽ち果てた姿をさらしている。それをサムエル・モレイラ現市長らが州政府の支援を取り付け、改修工事に着手。併せて、元工場を日並ぶ四棟の赤レンガ倉庫は



左からフランシスコ、マルセロさん

よみがえる遺産

州立学校の教員養成施設とすることが決まった。

郷土文化生かす

フランシスコさんが地元の日系人から借りたという分厚いアルバムを本棚から取り出してきた。ぎっしり詰まっていたセピア色の写真と詰まった横顔と生活風景

が眼る。二人はまず郷土史をよく学べることから開始したようだ。とりわけ、初期移民の住居にまず関心があったという。ブラジルの材料とスタイルが交わり合ってきた日本家屋はユニークだね。ほらこれなんか」と写真を指さす。

土地の文化が素材に表れた建築はミナスの田舎育ちである二人に共通する興味だ。一九九二年に出版された「一九〇二年に出版され、その年、ブラジル建築協会から『今年最高の本』」に選出された『アルキテツラ・ルラル・ナ・セラ・ダ・マシチケイラ』はマルセロさんが見ると目を惹きつけた。その写真とテキストを手掛けたもの。反響は大きく、その写真展はブラジル国内のみならず、ミラノ、バルセロナ、メキシコシティなどを巡回した。

現代建築家とはいって、古きものへの愛着は強い。というか、現代的な素材とのコントラストを嗜好する。一見モダンな二人の事務所だが、天井を見上げれば竹。こんな発想が記念館の隅々にも生かされている。

今年初めのフオーリヤ紙文化欄にマルセロさんの写真が大きく載った。「七年前、バルジ夫妻の財団で務めた理事職を離れ、準備を進めてきた新しいプロジェクトが完成する」。プロジェクトとはもちろん、日系移民記念館のことだ。記事のタイトルにはなぜか「オリガミ」とある。

日本人の町 強調

ガラニ文化から、ポルトガル文化をへて、日本文化へ。植民地時代、金の計量・登記所（レジストロ）が置かれた同市に日系移民が入植して、今年で八十六年を迎える。「ギア・ブラジ」を「二〇〇一年度版」をめぐり、レジストロ市の歴史を見れば、「サンパウロ市から九千二百」といった記述のほかに「エスタ・シダーデ・コン・フォルテ・ヂャポネーザ」の都市は日本人の存在感が強い」という表現にぶつかる。

KKKKの建物がよみがえり、新しい街のシンボルが出来上がったことで、これからもレジストロ市は「日本」を軸に発展していくことになるはずだ。

実際、倉庫と工場の再活用計画が終了した今後は、河畔周辺の整備が重点的に進められようとしている。サンパウロとクリチバを結ぶ国道百十六号線と鉄道の線路に挟まれた区間を「ウルバノ」、「ラゼール」、「シグワイ」と目的別に四つの区画に分け、それぞれに見合った施設が近い将来建つことが期待されている。このプロジェクトもすべてマルセロさんとフランシスコさんが手掛ける。彼らの事務所でもまた、二人の日系人が存在感を持って働いているのを目にした。